

日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red

Cross Kyushu International College of

Nursing

沖縄県立看護大学・大学院集中講義3：
プリシード・プロシードモデル precede-proceed
model

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-01 キーワード (Ja): キーワード (En): precede-proceed model, plan-do-check-act cycle 作成者: 守山, 正樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://jrckicn.repo.nii.ac.jp/records/665

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



WB18 沖縄県立看護大学・大学院集中講義3： プリシード・プロシードモデル precede-proceed model



<https://taiwa-act.blogspot.com/2014/02/wb18precede-proceed.html>

皆さんこんにちは。今日は沖縄県立看護大学の2014年2月の集中講義、前半の第1日目に取り上げたプリシード・プロシードモデル(Precede-Proceed model) についてです。

プリシード・プロシードモデル(Precede-Proceed mode) は、目前の人々に突然健康教育を行うのではなく、社会的な事業活動の流れの中に、健康教育（或いはヘルスプロモーション）を組み込む考え方です。ネットで画像検索を行うと、Precede-Proceed モデルのいろいろな画像が出て来ます。分りやすい画像を見ながら、話を聴いてください。

Precede-Proceed のように活動をサイクルとして捉える発想は、より原則的なPDCAサイクルの考え方にも表れています。PDCAサイクルとは、Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する考え方です。第二次世界大戦後、品質管理の考え方を発展させたW. Edwards Deming や Walter A. Shewhart らの業績により、多くの人々が知るところとなりました。

PDCAの4段階を強調すると、この図になります。4段階を繰り返すことで、球体が坂道を押上げられるように、全体の質が向上することを強調して、このような図が描かれることもあります。ヘルスプロモーションの概念が日本に紹介されて以来、多用されて来たこの図と、雰囲気は似ています。ヘルスプロモーションを、水平的なネットワーク構築よりも、集団的な計画推進に重点を置いて捉える発想が、表れていると感じられます。

ではPrecede-Proceedモデルを見ていきます。9つのステップから成り立っています。最初の5つは、健康教育（あるいはヘルスプロモーション）を実施する前に行う診断的な過程です。1社会診断、2疫学診断、3行動・環境診断、4教育・組織診断、5行政・政策診断から成り立っています。健康教育の実施は6番目の段階です。実施後は評価が続きます。7プロセス評価、8影響評価、9結果評価となります。

実際にPrecede-Proceedモデルを実行するためには、何日もの時間や多くの人手を要します。しかしPrecede-Proceedモデルの段階を追って、考えてみることは、モデルを理解する手段として重要です。今回の集中授業では、6名の受講生は3名ずつ2チームに分かれました。それぞれのチームは、沖縄の健康に関連して、まず取り組む課題を考えた上で、思考実験的に9つのステップを追って考え、得られたアイデアを書き表しました。1時間の作業の後、発表の様子を次に示します。

(守山正樹)